

名古屋大学・三重大学3年生による建築作品展および合評会「桑名市のまちなか居住の姿を提案する」が開催されました

日時 : 2015年9月28日(月) 展示会10:00~20:00 公開講評会10:00~12:00
 会場 : 桑名市多目的ホール(時のホール)
 三重県桑名市中央町三丁目79番地 くわなメディアライヴ1F
 講評者 : 江川直樹(関西大学)・菅原洋一(三重大学)・松浦健治郎(三重大学)・
 片木篤(名古屋大学)・堀田典裕(名古屋大学)
 出品者 : 大塚洋人・大沼亜輝・小澤巧太郎・小島悠暉・鳥谷尾駿佑・福井優太・
 三輪南海・森下裕介・山田航輝・米澤真佑子(以上、名古屋大学)
 主催 : 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学系
 三重大学大学院工学研究科建築学専攻
 新聞記事 : 『建築作品展を名大・三重大学生が開催』『三重建設新聞(2015.9.18)』
 『名古屋大学と三重大学が建築作品展を桑名で』『建通新聞(2015.9.29)』

東方地区

丘陵住宅地と駅前商業地の「きわ」をデザインする
 名古屋大学 工学部 環境土木・建築学科/建築設計及び演習第1 STUDIO1

桑名の町は、関西本線と近鉄線(名古屋線・兼老線・北勢線)の線路の東西で大きく異なる風景が展開します。線路東側では、東海道と伊勢湾海上交通を大垣関ヶ原で中山道に結び、「十寒の津」として賑わった近世城下町を核とする低地が広がります。他方、線路西側では、桑名藩松平家の菩提寺である照源寺から、物見遊山の名所であった愛宕山に至る丘陵地が広がり、高度経済成長期から徐々に電車通勤者を当て込んだ住宅地として開発されて来ました。

本課題の敷地は、こうした線路西側の丘陵地縁端に位置し、長らく線路の東西における開発に取り残された場所でしたが、現在は、土地区画整理事業が進行中(2025年完工予定)で、敷地周辺の風景が一変することが予測されます。敷地の東側と南側は、都市計画道路に面しており、いずれも駅前広場から伸びる道路に面結されます。敷地の西側は、平均高低差5.0mの崖で隣地に連続しており、その植生は丘陵地縁端の崖線沿いに貴重な緑地帯を形成し、旧市街からの都市景観を考えると重要です。本課題は、①丘陵地縁端の崖線沿い景観、②地方都市の駅前における低層集合住宅、③地域社会に応答できる施設からなる三つのあり方に関する設計案を問うものです。(担当教員:片木篤・脇坂圭一・堀田典裕)



所在地	三重県桑名市東方(敷地面積1,806㎡)
用途地区	第1種住居地域(建ぺい率40%、容積率200%、外壁後退距離なし)
防火規制	建築基準法第22条地域
規模諸室	延床面積最大 3,612㎡
外 構	住戸部分 30戸程度、50~100㎡程度/1住戸(夫婦世帯と家族世帯)
	店舗部分 カフェ(語学教室とギャラリーとして利用) 150㎡程度
	駐車場等 駐車場は住戸数の50%以上、駐輪場は住戸数の150%以上
	ゴミ置場 分別回収ができるようにしておくこと
備 考	敷地西側緑地帯を考慮した一体的な整備

名古屋大学・三重大学3年生による建築作品展

桑名市のまちなか居住の姿を提案する

2015年9月28日(月) 午前10時30分~午後8時

桑名市の3つの異なるまちなかにおける集まって住む形を名古屋大学と三重大学の3年生が自由な発想で提案しました。多数の皆様のご来場をお待ちしています。

会場: 桑名市多目的ホール(時のホール) 三重県桑名市中央町三丁目79番地 くわなメディアライヴ1F

展示会: 午前10時30分~午後8時 / 公開講評会: 午前10時30分~午後1時

主催: 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学系・三重大学大学院工学研究科建築学専攻

その他: 入場無料・申込不要 / 問い合わせ先: 059-231-9477 (担当: 松浦)

*この展示会は名古屋大学の授業・建築設計及び演習第1「Housing in KUWANA」及び三重大学の授業・建築設計製図III「路地を介した集まって住むまちの姿を現代的に再生する」・「城下町の遺産を活かした集住の形」の優秀作品を展示するものです。従って、実現を前提としたものではなく、仮想的計画内容となります。

赤須賀地区: 路地を介した集まって住むまちの姿を現代的に再生する / 三重大学



東方地区: 丘陵住宅地と駅前商業地の「きわ」をデザインする / 名古屋大学



片町・宮通地区: 城下町の遺産を活かした集住の形 / 三重大学



